

平成 28 年度
渡嘉敷村観光誘客
プロジェクト委託業務
業 務 報 告 書

株式会社 ライヴス

代表取締役 清家 貴

沖縄県那覇市字小禄 1831-1
沖縄産業支援センター509 号室

Tel:098-996-2272 Fax:098-996-2273

1. 本業務について

1-1 本業務の目的

渡嘉敷村では、国内観光客への誘客施策として、広報宣伝、イベント出展、商談会、パンフレットの作成および配布など、各種施策を展開してきた。しかしながら、国籍や観光客のニーズも多様化している昨今、ニーズの把握、それに基づいた旅行商品の造成、島のもつ魅力の効果的な情報発信など、一連の流れとしての総合的な活動を実施する必要性が高まっている。また、沖縄県が実施するプロモーション施策との連携を図る必要がある。

そこで、観光客のニーズに沿った観光コンテンツ、観光情報の発信を効果的に実施するために、入域観光客のニーズ調査・分析を行い、戦略的なプロモーション活動へと高度化するためのワークショップを開催し、観光客のニーズに対応し、沖縄県のプロモーション活動と連動した誘客プロジェクトを実施することを目的とする。

1-2 本業務の実施期間

平成28年5月25日から平成29年3月21日まで （301日間）

2. 実施状況

2-1 観光客意識調査

(1) 概要

① 調査対象

渡嘉敷島にきた観光客（日本人、外国人）

② 調査項目

以下の通りとなる。

大項目	No.	調査項目	日本人	外国人
属性	1	回答者の性別	1	1
	2	回答者の年代	2	2
	3	回答者の出身	3	3
	4	回答者の職業	4	4
旅行全般	5	過去1年以内の旅行の有無	5	5
	6	過去1年以内の旅行先	6	6
	7	旅行先を決める際の重視事項	7	7
情報収集 事前調査	8	情報収集方法	8	8
	9	入手できなかった情報	9	9
	10	情報収集時期	10	10
	11	渡嘉敷島へ行くと決めた時	11	11
	12	渡嘉敷島の認知度	12	12
	13	渡嘉敷島のイメージ（来る前）	13	13
	14	渡嘉敷島の訪れたい場所（来る前）	14	14
渡嘉敷島	15	沖縄県への交通手段	—	15
	16	沖縄県に訪れた回数	15	16
	17	日本を訪れた回数	—	17
	18	渡嘉敷島に訪れる回数	16	18
	19	前回渡嘉敷島に訪れた時期	17	19
	20	同伴者	18	20
	21	旅行形態	19	21
	22	移動手段	20	22
	23	沖縄旅行の日程	21	23

	24	渡嘉敷島旅行の日程	22	24
	25	宿泊先	23	25
	26	夜の過ごし方	24	26
	27	イメージと異なっていたもの	25	27
	28	渡嘉敷島でよかった場所	26	28
	29	渡嘉敷島の美化の印象	27	29
	30	渡嘉敷島の自然環境の印象	28	30
	31	渡嘉敷島で使った費用	29	31
	32	渡嘉敷島観光についての意見	30	32
	33	満足度	31	33
危機管理	34	災害・事故時の必要なもの	32	34
再来訪	35	渡嘉敷島への再来訪	33	35

③ 調査期間

平成 28 年 8 月 23 日（火）～平成 29 年 2 月 23 日（金）

④ 実施方法

- ・記入式のアンケート調査を実施した。
 - ・フェリー及び高速船により沖縄本島に帰る人に対して、アンケート票を手配りで配布し、船上での記入をお願いした。
 - ・記入後のアンケート票は回収箱にて回収した。
- ※実施中は常にスタッフを配置し、記入漏れがないよう、「記入方法がわからない」などの質問に答えられるようにした。

⑤ 回収数

日本人 138 人、外国人 30 人 合計 168 人

⑥ 調査結果

別紙「渡嘉敷村観光客アンケート調査結果報告書」参照

2-2 ワークショップの開催

(1) 第一回

① 開催日時

平成 29 年 1 月 17 日(火) 19:00-21:00

② 開催場所

渡嘉敷中央公民館 1F

③ 講師

レインボウパブリッシング株式会社 代表取締役 川端祥司 氏

④ 実施内容

- ・講演 「外国人観光客誘致による 地域活性とその戦略」
- ・ワークショップ SWOT 分析
「渡嘉敷島の強み・弱み」の洗い出し

⑤ 参加者

合計 12人

No.	所属	名前
1	農業	棚原 盛夫
2	公務員	小嶺 正之
3	議員 農業	與那嶺 雅晴
4	自営	池松 来
5	渡嘉敷自然塾	金城 肇
6	月の翼	長谷 和典
7	リーフィン国吉	国吉 佳奈子
8	渡嘉敷石油	新垣 一史
9	議員 農業	小嶺 勉
10	アロハレンタ企画	中村 めぐ美
11	沖縄青少年交流の家	水澤 豊子
12	I.M.S アイランドマリンスービス	國吉 真之助

⑥ 成果物

別紙「ワークショップ「強み・弱み」まとめ」参照

⑦ 実施風景



⑧ 参加者満足度

以下の通りとなる。

満足度	構成比
とても満足	15% (2/13)
やや満足	38% (5/13)
普通	31% (4/13)
やや不満	15% (2/13)
不満	0% (0/13)

全体として、「やや満足」・「普通」が多く、半数以上が満足と答えている。一方で「とても満足」、「やや不満」も 15%ずつあり満足度はばらつきがある。満足度が高い意見として、これを機に問題意識を持ったりコミュニケーションを取ったりする機会が得られたことが挙げられている。一方で、満足度が低い意見として、外国人観光客受入対策よりも、国内観光客向けの対策について話し合うべき、等テーマに関して違和感があることがわかった。国立公園に指定され、外国人観光客が増えている現状はあるが、事業者の外国人観光客受け入れに対する意識は低い。多くの住民にとって、優先順位が低いことが分かった。

※詳細は別紙「アンケートまとめ」を参照

(2) 第二回

① 開催日時

平成 29 年 1 月 18 日(水) 19:00-21:00

② 開催場所

阿波連生活館

③ 講師

観光ビジネス総研 代表 刀根 浩志 氏

④ 実施内容

- ・講演 他エリアにおける成功事例
 - ・ワークショップ 渡嘉敷島の強みをブラッシュアップする
- ※別紙「事前課題シート」参照

⑤ 参加者

合計 8人

No.	所属	名前
1	民宿さち	大城 盛秀
2	米浜交通	米浜 美智
3	サニーコーラル	池松 来
4	月の翼	長谷 和典
5	リーフィン国吉	国吉 佳奈子
6	渡嘉敷自然塾	金城 肇
7	I.M.S アイランドマリンサービス	國吉 真之助
8	民宿サンキュウ	金城 伊津子

⑥ 実施風景



⑦ 参加者満足度

以下の通りとなる。

※参加者8人のうち、アンケートにご協力いただいたのは5人

満足度	構成比
とても満足	60% (3/5)
やや満足	20% (1/5)
普通	0% (1/5)
やや不満	20% (1/5)
不満	0% (0/5)

「とても満足」が 6 割と多い一方で「やや満足」、「やや不満」の意見もある。
「やや不満」と回答した理由については以下の通り。

「個人的にはとても勉強になったが、渡嘉敷村産業の今後についての内容が個人のものなのか？行政のものなのか？が少し分からなかった。（話の）内容には行政が対策すべきことも入っているので、行政も含めて産業の今後を考えるべきと思った」

今回のような試みは全体的には好ましく感じているという回答が多いものの、今後の展望については、行政と民間の役割を分け、民間における観光業についてさらに詳細に伝えていく必要性があると感じた。

次回以降の開催については、80%の人が「参加したい」と回答しており、期待感をもっていただいていることもわかる。

※詳細は別紙「アンケートまとめ」を参照

（３）第三回

① 開催日時

平成 29 年 2 月 22 日(水) 19:00-21:00

② 講師

観光ビジネス総研 代表 刀根 浩志 氏

③ 実施内容

ワークショップ 「渡嘉敷の強みを生かした観光商品を考える」

④ 参加者

合計 9人

No.	所属	名前
1	しおのか	金城 渉
2	サニーコーラル	池松 来
3	渡嘉敷自然塾	金城 肇
4	村役場	大城 絢也
5	村役場	名嘉 康人
6	ハンズ電気	新垣 久
7	I.M.S アイランドマリンサービス	國吉 真之助
8	国立沖縄青少年交流の家	水澤 豊子
9	月の翼	長谷 和典

⑤ 成果物

別紙「事前課題シートまとめ」参照

⑥ 実施風景



⑦ 参加者満足度

満足度	構成比
とても満足	33% (3/9)
やや満足	56% (5/9)
普通	0% (0/9)
やや不満	11% (1/9)
不満	0% (0/9)

「とても満足」「やや満足」で 9 割近い満足度を得た。「やや不満」と回答した理由については以下のとおり。

「このワークショップで出て来たアイデアを村の政策等に反映させ実現できたらいいいと思うが、具体的に今後の取り組みをイメージできない」。

3 回にわたって実施したワークショップだが、参加者からも具体的に「村役場の人と共に話をしてワークショップをしたかった」という声は何人からかあがっており、現在参加していない人たちにも積極的に参加してほしいという要望があった。

2-3 村内外で開催されるイベントサポート

(1) さっぽろトリム&ラン大会

① 概要

a. イベント名

さっぽろトリム&ラン大会

b. 開催場所

真駒内セキスイハイムスタジアム

c. 開催日時

平成 28 年 6 月 11 日（土） - 6 月 13 日（月）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・2000 部

オリジナル P P 袋（とかしきマラソン）・・・1500 部

とかしきマラソン PR 用うちわ・・・2000 枚

ポストカード・・・1000 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 草間亜沙子（1 名）

f. 実施風景



② 成果

さっぽろトリム&ラン大会会場にて「とかしきマラソン」大会 PR を実施。

11 日に会場入りし、事前準備。当日大会前・後のランナー及びその同伴者に対して PR ツールを配布した。会場で配布できなかったツールについて、一部現地スポーツ用品店に協力してもらい、同時期に札幌大通り公園で開催していた「よさこい祭り」会場にて配布した。

(2) 沖縄観光セミナー2016 in 金沢

① 概要

a. イベント名

沖縄観光セミナー2016in 金沢

b. 開催場所

金沢市文化ホール 大集会室

c. 開催日時

平成 28 年 7 月 8 日（金）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・200 部

オリジナルPP袋（クマノミ・ナンヨウハギ）・・・200 枚

うちわ（おすすめイベント）・・・200 枚

ポストカード・・・800 枚

国立公園ロゴステッカー(大・小)・・・100 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 草間亜沙子（1 人）

f. 実施風景



② 成果

主に旅行会社向けの渡嘉敷島観光PRを実施。実施内容として、ブースでのPR、動画の放映、旅行会社担当者に対する営業活動と、上記PRツールの配布を実施。

(3) MRO 旅フェスタ (OCVB)

① 概要

a. イベント名

MRO 旅フェスタ (OCVB)

b. 開催場所

石川県産業展示館 1 号館

c. 開催日時

平成 28 年 7 月 9 日 (土) - 7 月 10 日 (日)

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP (日本語版)・・・1600 部

オリジナル PP 袋 (とかしきマラソン)・・・100 枚

オリジナル PP 袋 (クマノミ・ナンヨウハギ)・・・1600 枚

うちわ (おすすめイベント)・・・2000 枚

うちわ (とかしきマラソン)・・・100 枚

ポストカード・・・15600 枚

国立公園ロゴステッカー(大・小)・・・1600 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 黒岩孝自、草間亜沙子 (2 人)

f. 実施風景



② 成果

とかしき島ブースにて観光 PR ツールの配布および貝殻ストラップづくり体験を実施。貝殻ストラップづくり体験を実施したことで、ツール配布だけではなく、内容の充実した営業活動が実施できた。貝殻ストラップづくり体験希望者が常に列をなす状況になったため、待ち時間の長さが心配となったが、参加者からの不満の声はなかった。

(4) ソニーアクアリウム

① 概要

a. イベント名

ソニーアクアリウム

b. 開催場所

銀座 SONY ビル

c. 開催日時

平成 28 年 8 月 11 日（木） - 8 月 15 日（月）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・6400 部

うちわ（とかしきマラソン）・・・500 枚

オリジナル PP 袋（クマノミ・ナンヨウハギ）・・・6400 枚

うちわ（おすすめイベント）・・・5900 枚

ポストカード・・・36000 枚

国立公園ロゴステッカー(大・小)・・・12800 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 花咲宏基、草間亜沙子

f. 実施風景



② 成果

ソニーアクアリウム開催時に正面入口前（屋外）にて渡嘉敷島 PR ツールの配布。

慶良間諸島として、座間味村の PR も同時に行った。また、一階会場内に机を設置し、貝殻ストラップの体験ワークショップを行った。

待ちスペースが十分に確保できないため、整理券を配布。施設内の他のお客様に迷惑をかけないように配慮した。途中渡嘉敷村観光大使 DJ SASA さん、佐藤弘道さんも、PR ツール配布協力に来場し、そのほかにも首都圏在住の渡嘉敷村サポーターも駆けつけてくれ、順調に配布を行うことができた。

(5) 丸の内キッズジャンボリー

① 概要

a. イベント名

丸の内キッズジャンボリー

b. 開催場所

東京国際フォーラム

c. 開催日時

平成 28 年 8 月 16 日（火） - 8 月 18 日（木）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・900 部

オリジナル PP 袋（とかしきマラソン）・・・900 枚

うちわ（とかしきマラソン）・・・900 枚

ポストカード・・・800 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 花咲宏基、草間亜沙子（2 人）

f. 実施風景



② 成果

丸の内キッズジャンボリーで沖縄ワークショップに参加した子供たちを対象に渡嘉敷島の観光 PR ツールの配布を実施。会場内には、渡嘉敷のビーチの砂と貝殻・サンゴに触れることができる砂場を準備。来場した子供には、好きな貝殻やサンゴをプレゼント。

ワークショップの前後に子供たちが訪れ、保護者とも交流を持つことができた。

（６）北海道マラソン

① 概要

a. イベント名

北海道マラソン

b. 開催場所

札幌大通り公園

C. 開催日時

平成 28 年 8 月 27 日

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP (日本語版)・・・500 部

オリジナルPP袋（とかしきマラソン）・・・500枚

うちわ（とかしきマラソン）・・・500枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 草間亜沙子（1名）

f. 實施風景



② 成果

沖縄県ブースにて、マラソンアイランドおきなわとしてPRを実施。他大会のリーフレットと一緒にとかしきマラソンリーフレット、渡嘉敷島観光情報を配布。他大会と比較して、とかしきマラソンの良さをPRすることができた。

マラソン大会も数多くあるので、差別化して PR を実施することが重要だと感じた。

(7) 横浜チャンプルーカーニバル

① 概要

a. イベント名

横浜チャンプルーカーニバル

b. 開催場所

横浜みなとみらいエリア

c. 開催日時

平成 28 年 9 月 17 日（土） - 19 日（月）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・4000 部

オリジナル PP 袋（クマノミ・ナンヨウハギ）・・・4000 枚

うちわ（おすすめイベント）・・・4000 枚

ポストカード・・・32000 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 花咲宏基、草間亜沙子（2 名）

f. 実施風景



② 成果

会場内にて渡嘉敷島観光情報 PR を実施した。

渡嘉敷村観光大使の DJ SASA 氏の舞台パフォーマンスも実施された。

(8) 大阪マラソン

① 概要

a. イベント名

大阪マラソン

b. 開催場所

インテックス大阪

c. 開催日時

平成 28 年 10 月 27 日（木） - 10 月 29 日（土）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・3000 部

オリジナル P P 袋（とかしきマラソン）・・・3000 枚

うちわ（とかしきマラソン）・・・3000 枚

ポストカード・・・12000 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 草間亜沙子（1 人）

f. 実施風景



② 成果

大阪マラソンに参加するランナーを中心に、とかしきマラソン PR 及び渡嘉敷島観光 PR ツールを配布。会場内の場所も多く、多くのランナーに興味を持っていた。最終日には、マラソン事務局の比嘉様が会場内ステージ上にてとかしきマラソンの PR を実施した。

(9) 離島フェア

① 概要

a. イベント名

離島フェア

b. 開催場所

沖縄セルラーパーク那覇

c. 開催日時

平成 28 年 11 月 25 日（金） - 11 月 27 日（日）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・3500 部

オリジナル PP 袋（クマノミ・ナンヨウハギ）・・・3500 枚

うちわ（おすすめイベント）・・・3900 枚

うちわ（とかしきマラソン）・・・2100 枚

ポストカード・・・24000 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 草間亜沙子、石川怜菜（2 人）

f. 実施風景



② 成果

会場内にて、来場者に渡嘉敷島の観光 PR ツールを配布。慶良間諸島として、座間味村と協力して PR を実施。別ブースでは、渡嘉敷村商工会の特産品販売ブースも設置され、「まぐろジャーキーはどこですか？」と質問されることも多く、物産と観光の PR を一緒に行うことによって相乗効果が生まれることを感じた。その他にはブース内で貝殻ストラップ作りの体験ワークショップを実施。参加希望者が途絶えることはなく、盛況だった。

(10) サンゴの日記念沖縄まつり in サンシャインシティ

① 概要

a. イベント名

サンゴの日記念沖縄まつり in サンシャインシティ

b. 開催場所

池袋サンシャインシティ

c. 開催日時

平成 29 年 3 月 4 日（土） - 3 月 5 日（日）

d. 配布物

渡嘉敷島 MAP（日本語版）・・・1000 部

オリジナル PP 袋（クマノミ・ナンヨウハギ）・・・1000 枚

うちわ（おすすめイベント）・・・1000 枚

ポストカード・・・8000 枚

e. 同行者

株式会社ライヴス 花咲宏基、草間亜沙子（2 人）

f. 実施風景



② 成果

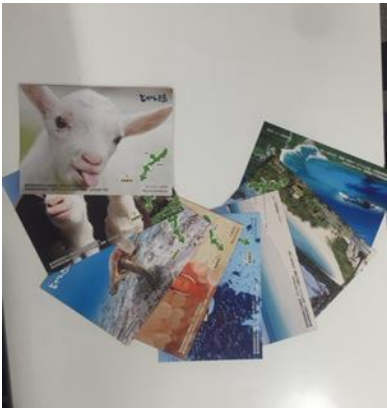
伊江島・粟国島と一緒にブースで渡嘉敷島観光 PR ツールを配布した。

伊江島、粟国島は食品サンプル（塩、黒糖）と一緒に PR ツールを配布していたが配布数に大きな差はなかったので、食品サンプルと一緒に配る効果は低いように感じた。また、貝殻ストラップをワークショッププログラムとして実施した。常時設置ではなく、一回あたりの人数も 12 人～18 人と多かったので対応に慣れるまで手間取った。

最終日に HY のライブがあったりと企画が催されたこともあり、イベント期間中、常時、人が途切れることはなかった。最終日に、渡嘉敷村観光大使の佐藤弘道さんに配布にご協力いただいたので、午前中には PR ツールの配布が終了した。

2-4 PR ツール制作

(1) 制作物一覧

制作物	数量	画像
渡嘉敷島 MAP (日本語版)	50,000 部	
渡嘉敷島 MAP (英語版)	10,000 部	
とかしきマラソンうちわ	10,000 枚	
観光 PR うちわ	20,000 枚	
ポストカード 4 c + 1 c	160,000 枚	

ステッカー 2種(30ミ リ、60ミ)	20,000 枚	
タペストリー 1430× 2000ミ テトロン製	1 枚	
とかしきマラソン ショルダーバッグ 乳白 特色1c	1000 枚	
マラソンPR PP袋	10,500 枚	
観光PR PP袋 4c +2c	20,000 枚	

(2) 納品状況について

別紙「ツール納品スケジュール表」を参照。

2-5 動画制作

(1) 概要

四季折々の島のイベントや観光スポット、人々の生活など、島の魅力を伝える映像コンテンツを撮影編集して、渡嘉敷島観光 PR 動画を制作する。

動画は、県内外の PR イベントで活用できるよう、1 分～5 分程度で構成する。

今年度の実施イベントで使用するための、簡易版も制作。村観光大使 DJ SASA 氏に BGM も含めた制作を担当していただいた。

●簡易版



簡易版は、その後 YouTube にも UP した。

現在アクセス数が 13,478 回（平成 29 年 3 月 16 日時点）となっている。

（参考 URL：<https://www.youtube.com/watch?v=fIRncRCY-fQ>）

●本編



(2) 納品物について

- a. 渡嘉敷島 PR 動画（1 分）・・・DVD-R 1 枚
- b. 渡嘉敷島 PR 動画（5 分）・・・DVD-R 1 枚

3. 本業務について

3-1 総評

(1) ワークショップについて

本年度全3回にわたって開催したワークショップを開催した。

毎回参加された村民からは、「気づきが多かった」「勉強になった」「考えるきっかけになった」等という前向きな意見をいただいた。

ワークショップでは、全体を通して、参加者が積極的に発言していた。

アンケートの「今後もこのようなワークショップがあれば参加したいですか？」という質問にも、ほとんどの人が「参加したい」「日程が合えば参加したい」と回答しており、継続的に実施していくことで、観光を意識する人材が育ち、村の魅力UPにつながるような前向きな兆しを感じることができた。

事業の開始時に、今期の取り組みと今後の展望について説明会にて説明をしていたものの、最初の説明会に参加していない村民からは今後の展望や、このワークショップの内容をどう生かすのか等についてご質問をいただくことも多かった。

業務多忙の中で参加していただいているので都度目的・今後の展望については共有したほうが良いと感じた。

(2) 県内外イベントでのPRについて

今までの課題として、例年参加しているイベントでPRの実施についてはマンネリ化が懸念された。改善に取り組んだが、今年も大きな改善にはつながらなかった。村で出展を計画している県外イベントのほとんどがOCVB（沖縄県）と連携しており、イベントの詳細情報などが開示されるのがイベント直前であることが大きな要因の一つである。今後改善していくには、村単体でイベント出展することも検討していく必要がある。また、汎用性のある渡嘉敷村ならではのPR企画を実施する必要があると考えたが、このPRツールの整備に時間を要することから、今年については大きな改善を実施することはできなかった。

一方で、県外のイベントにおいて、現在は県外に住んでいる渡嘉敷村と関わりのある人たちや、東京都在住の観光大使がサポートに訪れてくれる等、人の連携は非常にうまくいった。次年度以降も、県外のサポート体制を継続、強化すべきと考える。

(3) PRツール制作について

必要なタイミングで必要なツール制作を実施することはできたが、デザイン性・制作の進行等で大きな課題感が残った。

本業務受託時の5月末から、最初のイベントまでの期間が短く、ツールのデザインの提案が難しかった。企画提案時から詳細で具体的な提案を行っておく必要があった。

本年度は、納期の関係から印刷会社から直接納品等対応したが、イベント出展時のツール送料については高額になった。沖縄県からの送料で高額となったので、県外の印刷会社から直送するなど対策を行う必要があると感じた。

3-2 今後の課題

(1) 村民の観光に対する意識の二極化について

ワークショップを実施し村民と対話をする中で、村民の観光に対する意識の二極化していると感じた。観光に対して意識が高い人は、観光関連事業者が多いが、その他の職業についている人は「自分には関係ない」と、観光に対して意識が低い方が多く存在しているように感じた。

観光関連事業に携わっていない人にとっても、観光振興が村にどんな利益をもたらすのかを根気よく伝えていくことが重要だと考える。

(2) 事業者間の横のつながりについて

観光客の利便性を高め、満足度を高めるには、観光関連事業者同士が横の連携を強化し、協力し合っていくことが重要だと考えるが、連携がスムーズにいない様子がうかがえた。

親交の深い事業者同士の連携はスムーズだが、一方で、情報共有できていない事業者も存在している。

観光協会など、根気よく、継続的に事業者のニーズをくみ取る組織が事業者同士をつなげていくことの必要性を感じる。

（３）外国人観光客受入について

国立公園に指定され、世界に通用するナショナルパークとしてのブランディングを進めようとする動きがある一方で、村民からは外国人観光客受入に対する消極的な意見も少なくない。外国人観光客を受け入れる際の心構えをテーマにしたような人材育成の研修を必要としているというよりも、今すでに訪れている急増する外国人観光客に対してどう対応するか、現場で役立つツールなどの整備が必要だと感じた。

村内の看板や、飲食店でのメニュー表記など、言葉が通じなくても最低限村の観光を楽しむことができるような設備・ツールが必要と感じた。

現場で起こっている問題をひとつひとつ解消する取り組みを行いながら、少しずつ村民の外国人観光客に対する苦手意識を払しょくしていくような試みが有効ではないかと感じた。

（４）オフシーズンの観光 PR の仕掛け方について

オフシーズン（海で遊べない時期）の観光資源については、島内の一部の事業者を中心に山歩きガイド等の試みが始まっている。住民調査でも、オフシーズンの稼働率の低さが課題点として挙がっているが、オフシーズンに楽しめる観光メニューの開発は今後さらなる取り組みが必要ではないかと感じた。

自然のみならず、オフシーズンだからこそ楽しめる食・動植物・観光ポイント・歴史等、より多くの村民と観光資源を洗い出し、その観光資源をしっかりと PR して冬場のオフシーズンの観光を盛り上げることが重要である。